

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K12956

研究課題名（和文）合衆国の近現代文学と映画におけるカリフォルニアの表象についての研究

研究課題名（英文）A Study on the Representation of California in Modern and Contemporary U.S. Literature and Film

研究代表者

井上 博之（Inoue, Hiroyuki）

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：50780392

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はアメリカ合衆国の小説および映画におけるカリフォルニアの表象を考察するものである。カリフォルニア州はその地理的な位置づけもあいまって、さまざまな出自の作家によって描かれてきただけでなく、いくつかの物語のジャンルと特権的に結びついてきた点において、合衆国の文学史においても映画史においても複数のイメージを投影される空間として特殊な意義を担ってきた。自然主義文学から現代の小説・映画までを対象にして、多種多様なテキストの重層的な網の目によって形成される特異な物語空間としてのカリフォルニアの姿を提示する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の根底にあるのは人間が物語を通してどのように空間や場所との関係を築いていくのかという問題意識である。今回の研究では小説・映画によるカリフォルニアの表象というテーマを研究全体を貫く大きな問題としたうえで、個々のテキストについてそれぞれ具体的な問題を設定し、空間の主題に着目しなければ見えてこないような側面を引きだして分析することを心がけた。その過程において個別の作品についての研究に加えて物語と空間の関係性についての考察を進めると同時に、とりわけ日本の米文学研究においては周縁的な位置づけをされているように思われる西部・カリフォルニアの作品について考えることの重要性を確認できた。

研究成果の概要（英文）：This study is an examination of the representations of California in U.S. novels and films. Because of its geographical location at the continent's western edge, and because of its close relationship with specific genres of narrative, California has been represented by often contradictory and conflicting images. Analyzing literary and cinematic works associated with this state, from naturalist novels to contemporary novels and films, the study aims to clarify the multi-layered texture of California as a narrative space.

研究分野：米文学、映画

キーワード：米文学 映画 西部 カリフォルニア 空間

## 1. 研究開始当初の背景

以前から関心を抱いてきたアメリカ合衆国西部・南西部の文学と映画をめぐる研究の延長線上でカリフォルニアの表象について分析したいと考えたのが本研究のきっかけである。北米大陸のアメリカ合衆国本土でもっとも西に位置する州の1つであり、同時に太平洋の東端の陸地としても捉えることのできるカリフォルニア州は、その特異な地理上および歴史上の位置づけから合衆国の文学史においても映画史においても特別な役割を担ってきた。新しい始まりの場所、一種の楽園としてのイメージを投影されると同時に、閉塞感と社会的な腐敗に満ちた悪夢のような空間としても表象されてきたカリフォルニアは、しばしば相互に矛盾・対立する複数のイメージを混在させる空間となる。実在する地理的な空間であると同時に、このように文化的な表象の束として形成されてきた空間であるカリフォルニアが、個別の作品や物語ジャンルにおいてどのように表現されてきたかという問いが本研究の中心にある。空間と場所をめぐるさまざまな知見を参照しながら、それぞれに研究対象となってきた自然主義の文学やハードボイルド探偵小説、フィルム・ノワール、ウェスタン、それらの延長線上に位置づけられる現代の作品までを対象にして、多様で重層的な物語空間としてのカリフォルニアを捉えたいという考えが本研究の構想時の動機であった。

## 2. 研究の目的

本研究の根底にあるのは人間が物語を通してどのように空間や場所との関係を築いていくのかという問題意識である。将来的には小説および映画と空間との関係についての一般性を持った考察へと発展させていきたいと考えているが、今回の研究では物語によるカリフォルニアの表象というテーマを研究全体を貫く大きな問題としたうえで、個々のテキストについてそれぞれ具体的な問題を設定し、空間の主題に着目しなければ見えてこないような側面を引きだして分析することが1つの目標である。その過程において、物語空間がカリフォルニアの歴史、個人や共同体の記憶、人種・エスニシティ・階級に関わる政治的な主題、あるいは物語ジャンルの構築とその変容といった問題にも密接に関わっていることを明らかにする。本研究で得られた成果は段階的に国内外の学会での報告、学術誌への投稿論文のかたちで発表することを目指す。加えて、3年間の研究助成期間中に完全な原稿を用意することは難しいが、いくつかの論考がまとまった時点で研究の全体に統一的な枠組みを与え、最終的には英語で書かれた研究書として出版できるようなものにしたい。本研究の期間はそのための準備の期間として活用したい。

## 3. 研究の方法

カリフォルニアの文化史、個別の作家や映画監督に関する先行研究を整理したうえで、作品のテキストを分析した。物語と空間との相互作用を考察するため、本研究では他の研究分野における空間性をめぐる研究の成果を領域横断的に参照しながら、あくまでもそれぞれのテキストに根ざした分析を進めた。一つ一つの分析対象に見あった空間の問題に関連する具体的なトピックを設定し、それぞれのトピックを考えるための理論的土台として、地理学や文化人類学や哲学などの分野における研究を参照し、分析対象となる作品の精読（小説の場合は特定のパッセージの精緻な読解、映画の場合はショット分析）をもとにした研究をおこなっている。

## 4. 研究成果

本研究は3年間にわたる計画であった。1年目にあたる2020年度はケアリー・マクウィリアムズ、ケヴィン・スター、マイク・デイヴィスらによる代表的なカリフォルニアの文化史の研究を概観しつつ、特定の時代や作家に特化した先行研究を収集・調査する作業が中心となった。とりわけカリフォルニアとの結びつきの深いハードボイルド探偵小説やフィルム・ノワールの歴史的な発展を、数多く存在する代表的な作家・作品を渉猟しつつ整理する作業にほとんどの時間を使うことになった。並行して、古典的なハードボイルド探偵小説やトマス・ピンチョンのカリフォルニア小説についての論考の執筆に向けた作業を進めた。また、以前から研究対象としているウェスタンとハードボイルド探偵小説、カリフォルニアとの関係を軸にして、勤務校で開催されたシンポジウムにおいて「アメリカン・アンチヒーローの西部——21世紀のウェスタンとハードボイルド探偵小説におけるヒーロー像の変容」と題した発表をおこなった。そこではパトリック・デウィットの小説『シスターズ・ブラザーズ』(*The Sisters Brothers*)とその映画版、トマス・ピンチョンの『インヒアレント・ヴァイス』(*Inherent Vice*)とその映画版を西部およびカリフォルニアの物語として分析した。

2年目の2021年度は2つの作品論を紀要論文として発表し、今後の研究に接続できるような内容の口頭発表をシンポジウムで発表することができた。ポール・トマス・アンダーソン監督の映画『パンチドランク・ラブ』についての論考（“Lost and Found in Los Angeles: Urban Alienation and Expressionist Topography in *Punch-Drunk Love*”）では、この映画に登場するロサンジェルス複数の場所の表象を詳細に分析し、フィルム・ノワール的な閉塞的空間と肯定的な変化の可能性を体現する空間というロサンジェルスと頻りに結びつけられてきた両極的イ

メージが、この映画においては人物の内面と外側にある世界の境界線の溶融という表現主義的な手法によってあらわされている様子を論じた。本研究のサイドプロジェクトとして生まれたもう1本の紀要論文(“Looking Back, Moving On: Suspension and Mobility in Willy Vlautin’s *Northline*”)はネヴァダ州を舞台にした小説を論じたもので直接的にはカリフォルニアとは関係を持たないのだが、現代の合衆国西部における閉塞感を描き出すウィリー・ヴローティンの小説はカリフォルニア、とりわけロサンジェルスの小説・映画と多くの共通点を持つものでもあり、本研究の文脈で執筆することができたものである。また、シンポジウムにおける口頭発表「西へ東へ——ヴィエト・タン・ウェン「アメリカ人」と現代合衆国文学の位置」では、カリフォルニアと深く結びつくアジア系アメリカ作家と環太平洋世界のつながりを考える作業に着手することができた。

3年目の2022年度はこれまでに整理してきたカリフォルニアと合衆国西部の文化史関連の文献、および特定の作品についての先行研究をふまえ、紀要論文を1本発表した。また、セミナーや研究会での口頭発表・講演が3件となった。紀要論文「不純な小説のために——ヴィエト・タン・ウェン「アメリカ人」と現代合衆国文学の位置」は2021年度中のシンポジウムでの発表をもとにしたものである。口頭発表・講演の成果としては、自然主義作家フランク・ノリスの小説『マクティীগ』(*McTeague*)におけるカリフォルニアの表象をウェスタンやノワールといったカリフォルニアや西部と結びついてきた物語ジャンルとの関係性において分析したもの(「大陸の西、黄金の(悪)夢——フランク・ノリスとカリフォルニア」)、ポール・トマス・アンダーソン監督の映画『マグノリア』(*Magnolia*)におけるロサンジェルスの都市空間の意義を論じたもの(「わたしの民を解放しなさい——『マグノリア』の都市空間」)、トミー・リー・ジョーンズ監督の映画『メルキアデス・エストラダの3度の埋葬』(*The Three Burials of Melquiades Estrada*)における米墨国境地帯をウェスタンのジャンルとしての変容と結びつけて論じたもの(「地図にない場所を創る——『メルキアデス・エストラダの3度の埋葬』、米墨国境地帯、ウェスタンの変容」)がある。最後のものはカリフォルニアに直接関係する内容ではないものの、カリフォルニアもその一部を構成する国境地帯の文化を考える作業として、本研究から派生した有意義な機会となった。

この3年間に得られた個別の作品論の成果を土台として、さらに体系的にカリフォルニアの小説・映画を考えるための枠組みを構築し、将来的には1つの研究書としてまとめられるようなかたちに発展させていく作業が今後数年間の研究の中心となる予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 井上 博之	4. 巻 34
2. 論文標題 不純な小説のために：ヴィエト・タン・ウェン「アメリカ人」と現代合衆国文学の位置	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 147～153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34382/00018020	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Inoue	4. 巻 22
2. 論文標題 Lost and Found in Los Angeles: Urban Alienation and Expressionist Topography in Punch-Drunk Love	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Pacific and American Studies	6. 最初と最後の頁 53-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Inoue	4. 巻 26
2. 論文標題 Looking Back, Moving On: Suspension and Mobility in Willy Vlautin's Northline	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Odysseus	6. 最初と最後の頁 75-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002003658	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 井上博之
2. 発表標題 大陸の西、黄金の（悪）夢：フランク・ノリスとカリフォルニア
3. 学会等名 「逆走文学の系譜」研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井上博之
2. 発表標題 わたしの民を解放しなさい：『マグノリア』の都市空間
3. 学会等名 第3回LA研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井上博之
2. 発表標題 地図にない場所を創る：『メルキアデス・エストラダの3度の埋葬』、米墨国境地帯、ウェスタンの変容
3. 学会等名 グローバル・スタディーズ・セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上博之
2. 発表標題 西へ東へ：ヴィエト・タン・ウェン「アメリカ人」と現代合衆国文学の位置
3. 学会等名 立命館大学国際言語文化研究所シンポジウム『『生まれつき翻訳：世界文学時代の現代小説』から見えてくるもの』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上博之
2. 発表標題 アメリカン・アンチヒーローの西部：21世紀のウェスタンとハードボイルド探偵小説におけるヒーロー像の変容
3. 学会等名 地域文化研究専攻シンポジウム『くうたら、酔いどれ、ならず者：文学におけるアンチ・ヒーローの系譜』
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------